

CONTENTS

- P2～3 日頃の準備が肝心「要」
- P4～9 防災を「忘災」にしない！
- P10～11 進んでいます 新たなまちづくり
- P12～13 まちの話題
- P14～15 各種案内
- P16 救急車の適正利用を
- P17～19 情報
- P20 市民投稿コーナー

■ クローズアップ！ ■

有馬小・中学校から西側に下った坂の下にある中河内大橋。御影石でできたナマズ像は、平成6年に設置されました。昔、永池川は「長池堀」と呼ばれ、時には大きなナマズが釣れたそうです（海老名むかしばなし「長池の話」より）。静かな風景と愛嬌のあるナマズの顔に、心が和む場所です。



日頃の準備が肝心「<sup>かなめ</sup>要」

永池川にかかる「中河内大橋」。この橋の親柱の上から、ナマズがのどかな田園風景を眺めています。このナマズ像は、以前中河内にナマズが多く生息していたため、郷土に愛着を感じてもらえるようにと設置されたもので、地域の皆さんに愛されている人気者です。

ナマズとえば、「地中の巨大ナマズが暴れると地震が起きる」という俗説が有名です。1855年に発生した「安政の大地震」後には、地震の原因とされたナマズを描いた鯰絵（浮世絵など）が流行しました。鯰絵の中には、神が「要石（かなめいし）」という大石でナマズを押しさえつけているものもあります。「要石」のため、ふだんは動けないナマズですが、神が留守にしたときを見計り、また暴れて地震を起こす、とされています。

地震に関する調査・研究は行われていますが、残念ながら「要石」のように、地震を押しさえつける方法はまだありません。そのため、いざというときは被害を最小限に止めるため何をすべきか、私たちも日頃からよく知っておくことが肝心「要」…。橋上のナマズも、そう言っているようでした。

